

## 理事長所信

一般社団法人伊勢青年会議所  
第六十一代理事長 菱田信太郎

このまちに生まれ、このまちで育ち、このまちで青春を謳歌し、家族を持ち、今を生きることができる。あたりまえのように今このまちに生きる悦びを感じることができるのは、これまでこのまちを創って来られた先人のお蔭である。そしてその恩恵を将来のこのまちのために、次代のために還していかななくてはならない。このまちの未来のために、このまちに住まう人々のために、将来このまちに生を受ける子どもたちのために、すべての人びとが「このまちに住まい生きる悦び」を、そして、将来このまちに生を受けるすべての子どもたちが、「このまちに生まれた悦び」を心の底から感じることができる。そんなまちを創っていくことが、このまちに育てられ今を生きる我々青年の使命である。

我々一般社団法人伊勢青年会議所は、1957年、先輩諸兄の愛するこの地域の発展充実のためやむにやまれぬ情熱の基、誕生した。我々が今、この地で活動できるのも創立以来、60年間という長きに渡り先輩諸兄が一貫してこの地の「明るい豊かな社会の実現」を目指し、それぞれの時代と常に向き合い、誰から指し示されたものではなく、自らの意志でその実現に向け行動を起こし、確実な成果を残し続けてこられたからこそである。

60年間この地のために確かな存在として在り続けた伊勢青年会議所に改めて誇りを持ち、この組織と歴史を創り上げてこられた諸先輩方に心から感謝すると共に、自らの手でこの地の未来を切り拓き創りだしてこられた志を確実に受け継ぎ次代を担う責任世代として61年目という新たな一步を力強く踏みだしていきたい。

そして、この地の新たな未来を切り拓き、大いなる目的を達成するために、会員それぞれが持つ個性を活かし、それぞれが、担う役割を明確にし、目的に向けベクトルを合わせそれぞれがその役割を全うしていくことが必要である。創始より脈々と受け継がれてきた誇りを胸に、英知と勇気と情熱を結集し、この地の未来を創るのは「我々」だという強い意志をもってその使命を果たしていきたい。

我々は、この地を担う責任世代として、住まう地域で、所属する企業において、家庭の中で役割があり、その役割を果たし導いていく責任がある。その責任を全うするためには、自己の成長なくしては、成しえることはできない。青年会議所は、そのすべての活動において、自らを成長させる機会がある。しかし、ただ所属しているだけで、漫然と時を過ごすだけでは、その恩恵に与ることはできない。

自らの殻を破り、一步を踏み出し、自らを奮い立たせる強い意志が必要である。

我々が自ら踏み入れたこの道のりは険しく決して平坦なものではない、しかし我々の活動は、「おもしろい」ものでないといけない。「おもしろい」とは、単に言葉の意味として、「おもしろい」という事ではなく、志を同じくする仲間同志、集い語り合い日々の活動に積極的に取り組み、青年会議所活動のすべてを楽しむことである。

そして、活動に真剣に向き合い、もがき苦しみ、時には涙を流しながらも、自らを鍛え、自己の変革を覚えた時、また、真剣であるがために喧嘩をすることもあろう。互いに真剣にぶつかり、磨きあい、取り組み成しえることで、硬い絆が生まれたその時に、何事にも替えがたい喜びを感じるこそが真の「おもしろさ」である。

己を知り、己を受け入れ、現状に真摯に向き合い、すべての活動に積極的に取り組み、互いに切磋琢磨していくことで、自己の成長と会員同志の絆の構築へと繋げ続けることこそが、未来を切り拓く伊勢青年会議所会員の真髄である。

我々が住まうこの伊勢の地は、日本の精神文化の発信地である神宮と共に栄え古くから「日本人のこころのふるさと」として親しまれてきた。

第62回神宮式年遷宮の齋行、今年の伊勢志摩サミットを通じ、国内外から注目を浴び、数々のメディアに取り上げられた。国内外の多くの人びとがメディアを通じ神宮の荘厳で凜としたものを感じたと共に、日本人の精神の素晴らしさを感じたに違いない。この地に住まう人々も、日々の暮らしの中であたりまえのようにあるものを、多方面からの発信で、この伊勢の素晴らしさを改めて確認することができたであろう。

しかし、その精神性の素晴らしさを一過性のもので終わらせるのではなく、日本人の原点となる精神性を地域の人々に深く根付かせ続ける必要があると考える。

「日本人の原点がこの伊勢にある」所以を知ったとき、日本の心の醸成が地域を愛するところへ昇華し、郷土愛は自ずと高まり、真の伊勢の素晴らしさを感じる事ができると考える。

このまちに住まうすべての人びとが、このまちへの誇りを実感し次代へと繋いでいくことこそがこのまちを永続的に発展させることができる。

我々は所属する企業においてその経営の一翼を担う、もしくはそれに準ずるリーダー的役割を担う青年経済人である。地域に根差す企業の経営者の一人として、企業を発展させることはもとより、所属する企業の発展を通じ地域に貢献していく社会的責任がある。

そのためには、経営者として自らの成長を追求していかなくてはならない。何もしなくても企業が発展するのであれば、その責任を果たすことができるのであれば、経営者など必要ない。

我々青年経済人は、日々、刻々と変化する世の中の情勢に敏感に反応し、己の企業の現状に向き合い何が必要かを常に考え明確な目標を立て、それを成しえるために、自らが持つ経営資源を最大限有効活用しその効果を最大限発揮するための仕組み創りが必要であると考える。

我々は暇ではない。その限られた時間の中で、経営者としての力を青年会議所活動の実践を通じ養っていくことで青年経済人としての資質を高めることができる。

また、創始から受け継がれてきたこの活動を継承していくためには、会員一人ひとりの資質の向上はもとより、我々の想いを地域に広く伝播するために、我々と志を同じくし、行動を共にする新たな同志を増やしていく事は必須である。

「誰か」がやるのではなく全会員が会員拡大に対する意識を常に持ち、この組織が地域の為に恒久的に活動できるためにも、この組織の歴史と伝統を守るためにも、経営的センスを生かし、会員一丸となり会員拡大活動を展開していきたい。

我々の活動の目的は明るい豊かな社会の実現であり、それは創始以来何一つも変わらない。その活動に向けて青年会議所会員が活動に邁進していくためには、伊勢青年会議所が鞏固な組織でなければならない。そのためにも定款・運営規程等と常に向き合い、着実に確実に運営していく事が必要である。そして、外部との繋がりを密にして、更なる信頼関係を築く事が、伊勢青年会議所の発展に資すると考える。

我々青年会議所の活動は他に誇示するものではない。しかしながら、我々は見られているのである。この地における独立した唯一の青年団体として、60年という歴史ある組織として、地域より常に熱い眼差しを向けられている。我々の活動が常に地域の為にあるのかを常に向き合い。その活動の想いを地域に発信し、地域社会から共感を得続けなければならない。

組織として規律を守り地域に対し信頼を深めることが更なる青年会議所の発展につながる。

すべての会員が目的を共有し、それぞれが、与えられた役割を十分理解し、ひた向きの姿勢で臨み行動し、すべての会員が力を結集し、その力を最大限発揮することができれば、我々が想う社会は実現する。実現させるのは、「誰か」ではなく「私」「我々」である。このまちを背負う責任世代として私益を捨てすべては愛するこのまちのために、このまちの未来は我々が創っていくのだと、強い使命感を持ち続け力強く活動に邁進していきたい。

一般社団法人伊勢青年会議所 2017年度 スローガン

一意専心  
～すべては愛するまちのために～

一般社団法人伊勢青年会議所 2017年度 シンボルマーク

